

『地球社会共生論集』創刊に寄せて

地球社会共生学部長 平 澤 典 男

2015 年 4 月、相模原キャンパスに青山学院大学 10 番目の学部として地球社会共生学部が設置された。英語名称を the School of Global Studies and Collaboration と言い、GSC と略す。2000 年以降文科省の振る旗のもと教養の二文字を擁した学部名を持つグローバル系大学が相次いで誕生してきた中、この学部は途上国・新興国で求められる社会科学系のグローバル人材を育成することをミッションとすると自己定義した学部である。物事の始まりに立ち会えるということは、人生のなかでそう多くあることではないが、われわれこの学部の立ち上げに集められた教職員二十数名は幸運にもその機会を手にした。

そして、このたび学部設置から 1 年を経て『地球社会共生論集』をここに創刊することとなった。関係諸氏とともに心より喜びたい。またそれと同時に、ここにしたための紀要の巻頭言は、“遅れてきた学部”の、それでもあえて青学が「青学らしいグローバル人材」育成に特別な一步を踏み出そうとした学部教職員の「志」を代弁するものとしたい。

青学が誕生時からグローバルであったことは、本学の関係者ならば誰もが知っているドーラ・E・スーンメーカーの逸話を思い出せば多くの説明を要しない。その後も、戦後民主化教育の時代には文学部英米文学科の卒業生が活躍し、わが国が右肩上がり国際化の時代に発言力ある国際人を育成する学部として国際政治経済学部が作られ、世界に対して多くの有為の人材を輩出し続

けてきた。そして今、あらためて「グローバル社会」に必要な人材育成に焦点をあてた学部として満を持してこの「地球社会共生学部」が生まれたのである。

本学部の設計思想の概略を示そう。教育は学生に将来に備える知識と力を与えることが求められる。われわれはまず各種の将来予測データから 21 世紀中葉の世界イメージを「アジアの時代」と認識した。現在の社会がそこに到達するまでには東南アジアを中心とした新興国・途上国の順調な成長が欠かせない。そして、そのためには成長を阻む「差別」「貧困」「紛争」「情報格差」などの地球規模の課題が克服されねばならない。これが社会科学の 4 領域を本学部の学びの分野としてカリキュラムに設定した根拠である。すなわち、「差別」のメカニズムを調査分析する「社会学」、産業を興し、雇用を創出することで「貧困」を撲滅しようとする「経済学」「経営学」、世界各地に絶えない「紛争」の構造を知るには「政治学」「国際関係論」「異文化理解」、そして「情報格差」の問題には「メディア・ジャーナリズム」の学びと「空間情報」の技術が役立つ。学生はこれらの学びを通して新しい時代の地球市民が共生する社会を築くために世界に飛び立ってほしい。そしてその学びの水準を保証し、現実社会への貢献力を担保するものが教員の研究活動であり、その発信媒体としてこの紀要が存在する。

このたびの紀要の発行で、地球社会共生学会は制度も組織も整った。次にわれわれがなすべきは、学部教育の学問的基礎を支える研究をしっかりと積み重ねていくことである。その成果が本紀要に記されていく日々を想像しつつ、またそれが 21 世紀の中葉に向かって学部生の糧となり、彼らが「アジアの時代」のグローバル社会の発展の一端を担えるものとなることを期待してやまない。

(2016 年 5 月)